

第3回 豊平地区 学校配置検討委員会

日 時 令和5年(2023年)9月7日(木)16時00分～
場 所 豊平会館 2階大広間

次 第

1 開会

2 事務局挨拶

3 報告

- (1) 第2回検討委員会の振り返り・・・・・・・・・・・・・資料1
- (2) 地域や保護者から寄せられたご意見・・・・・・・・・・・・・資料2

4 協議事項

- (1) 統合する場合に活用する学校敷地の条件比較について・・・・・・・・・・・・・資料3
- (2) 旭小・豊平小への通学について・・・・・・・・・・・・・資料3

5 次回の学校配置検討委員会の開催日程について

6 閉会

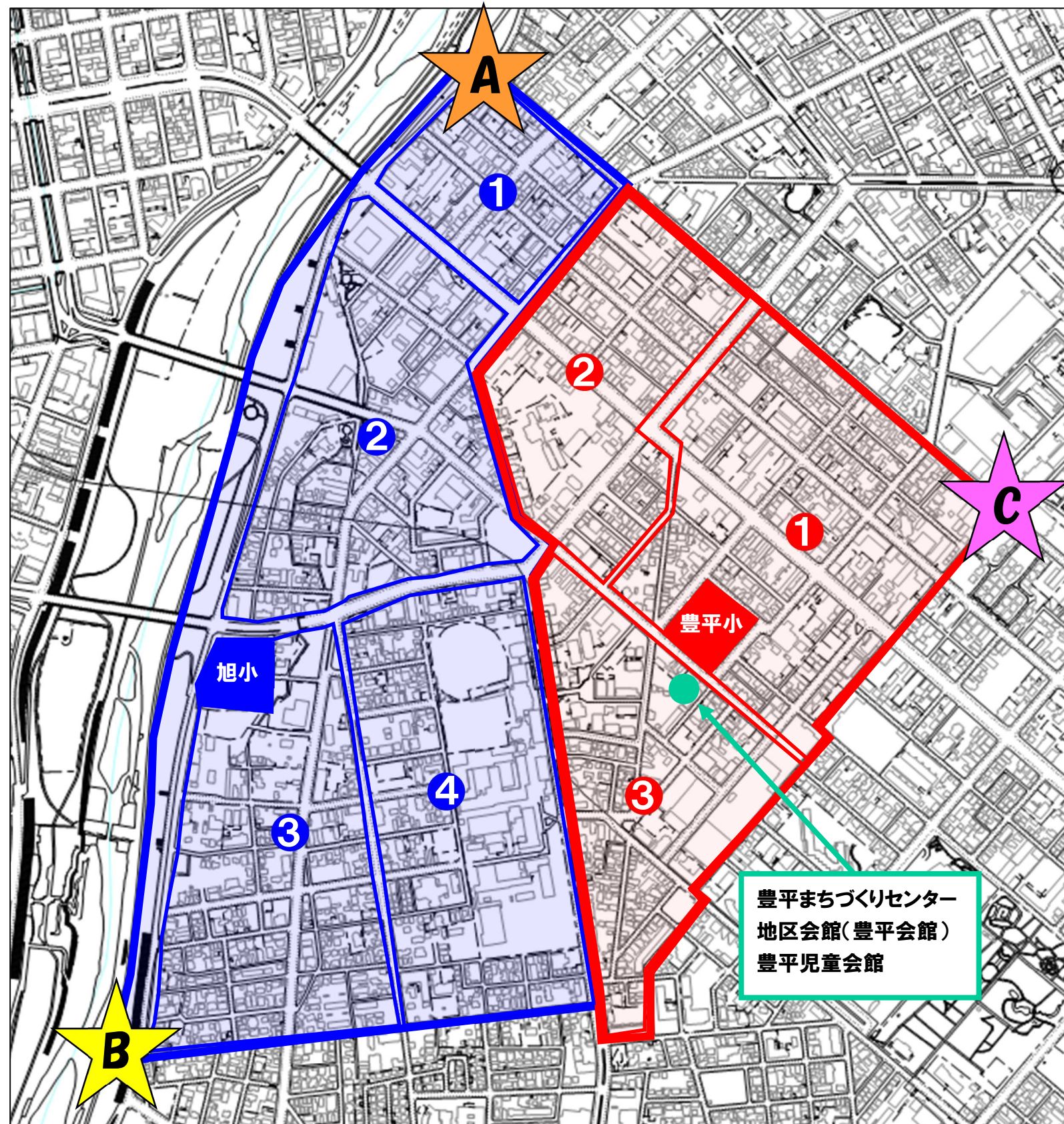
配付資料

- ▶次第
- ▶座席表
- ▶委員名簿
- ▶資料1 豊平地区学校配置検討委員会ニュース 第2号 ※HPにて公開しております
- ▶資料2 地域や保護者のみなさんなどから寄せられたご意見
- ▶資料3 統合する場合に活用する学校敷地の条件比較及び通学について
- ▶参考資料1 防災ウォーキング
- ▶参考資料2 札幌市浸水ハザードマップ抜粋

資料2 地域や保護者のみなさんなどから寄せられたご意見

受付日・方法	内容	分類
05.08.10 メール	委員会ニュースを拝見して早速メールさせていただきます。 私は統合に賛成です。 旭小学校の立地が『札幌市中小河川 洪水ハザードマップ』によると1階床下程度の浸水地域に入っていることです。 私の避難所は旭小学校です。 水につかるということは下水の逆流など衛生面で不安です。 最近では温暖化の影響か、異常気象によって線状降水帯ができれば、思いもよらない雨の被害が出ます。 立地も検討事案として統合になることを祈っています。	統合について 避難所について
05.08.14 電話	・ニュースレターを見たが、これはいったいどういう話なのか？ →旭小の規模適正化のための検討委員会である旨説明 ・豊平区で小規模化しているのは旭小と豊平小だけではないはずなので、今後10年とか考えるのであれば、この二校だけではなく、もっと多くの小学校、中学校を対象とした統合をして、大きな立派な学校を建てるのが良いのではないか。そうすれば、その学校を希望して地域の住民も増え、活性化する。 ・八条中を新しくして、近隣の小中学校を集めて、みどり小の敷地をグラウンドにすれば敷地は足りるのではないか ・せっかくなら、他とは違う、特化したデジタル化授業など特色のある教育をするようにしたらよい。 ・プールはどうなるのか？ →改築時にはプールを新設しない可能性があるが、まだなにも決まってはいない旨お伝え ・プールがなくなるという事を検討委員会ではちゃんと説明しているのか？プールは大事。いままであったものがなくなるとなれば不便だろう。 →統合案もまだ決まっていないので、改築の具体的な内容などはしていない。 ・ちゃんとそういったところも説明して議論するべきではないか →改築時には事前に案を提示してご意見を聞くタイミングあり。 ・検討委員会は自由に参加できないのか →第1回で自由な議論の为非公開と決定 ・ニュースレターの内容が検討委員会で出た話の全部かはわからないし、違う事が書いているかもしれない公開として広く意見を聞いた方がよいのではないか ・とはいえ、旭小がなくなるのはさみしい。あそこには一人熱血教師がいるが、行政がつぶそうとしている（詳細不明）	規模適正化について
05.08.19 メール	複合化施設について 旭小学校の統合に合わせて、現在のまちづくりセンター等を閉館して豊平小学校の校舎に併設するとの案ですが、そもそも小学校の統合とまちづくりセンター等の移設は別の事案のように思います。 現在のまちづくりセンター等の維持費用を削減するため移設するというのが主な理由でしょうか。 豊平小学校に併設するとの案ですが、具体的にどこに併設すると考えているのでしょうか。 現在の規模を維持するとなると相当な広さが必要だと思いますが、グラ	複合化施設について

	ウンドや公園スペースを狭めることになるのでしょうか。もしくは相応に縮小した形で併設すると考えているのでしょうか。 現在の児童館は時々利用させていただいており、とても助かっています。また豊平小学校隣接の公園スペースも貴重な遊び場として利用させていただいています。 豊平小学校の、校内に地域の人も使える公園があるオープンさや、グラウンドも含めた広々とした空間・規模感を変えずに小学校の統合を考えて頂きたいです。 また児童館も今の機能、広さを維持する方向で考えて頂ければと思います。	
05.08.21 HP	学校配置検討委員ニュースみせていただいたの意見として書かせていただきます。 この春旭小学校を卒業した保護者です。 交通量が多いこの広範囲を低学年の子供を長距離歩かせる親の不安はあると思います。 実際低学年の時に自転車にひかれたことがあり血だらけで帰って来ました。 1つの案として、札幌市の中の特区をつくり集団が苦手な子供や、小規模クラスで細やかなフォローが出来るような運営に切り替えてみるのもいいのではと思います。 中学へ行き 4.5 個の小学校が1つになり、7クラスは多すぎて、1クラスにギュウギュウな数の子供達で歩くスペースも横歩き状態です。参観も教室に入れるスペースないです。 これを見ると、詰め込み式に疑問もあり子供がのびのびできる環境を1番に検討いただきたいと思います。	複合化施設について
05.8.25 電話	・ニュースレターを見て意見を伝えたいと思って連絡した。 ・豊平小と旭小の統合について賛成。 ・先生と児童でやっぱりあうあわないという相性がどうしてもあると思う。その場合に他のクラスがあればクラス替えができる。 ・複式学級が良いという意見もあったが、それも豊平小に統合した上で、やったほうがいいなら一部の制度として取り入れたらよいのではないか。複式学級がいいから旭小が残るべきと言うのは違うのではないか。 ・豊平小の周辺校も将来的には統合の対象となる可能性があると思う。豊平小を改築するのであれば、そういったことも見越してある程度教室数に余裕をもって改築したらよいのではないか。 ・旭小の校区でも、中の島小の方が近い地域もある。その地域は近い小学校へいくか、選べるようにするのが良いのではないか。	学校統合について



1 旭小・豊平小敷地・校舎等の比較

	旭小	豊平小
開校年次	1955 年(昭和 30 年)	1881 年(明治 14 年)
校舎建築年	1981 年(昭和 56 年) ※築 42 年	1978 年(昭和 53 年) ※築 45 年
R5 年児童数/学級数 ※()内は特別支援学級	211 人/8 学級 (14 人/3 学級)	346 人/12 学級 (17 人/3 学級)
R10 年推計児童数/学級数 ※普通学級のみ	175 人/8 学級	332 人/12 学級
敷地面積	14,088 m ²	11,900 m ²
児童会館	ミニ児童会館	校舎向かいに豊平児童会館
改築時複合化	要検討	まちセン・地区会館・児童会館
指定緊急避難場所※参考資料参照		
洪水	使用不可	○
土砂	使用不可	開設しない
地震	○	○

2 旭小・豊平小への通学

(1) 旭小・豊平小児童分布について

旭小			豊平小		
	児童数	うち小 1～2		児童数	うち小 1～2
①	22 人	8 人	①	126 人	42 人
②	72 人	27 人	②	97 人	26 人
③	52 人	19 人	③	75 人	31 人
④	66 人	22 人			

※R5 年時点 区域外通学者を除く

(2) 旭小・豊平小への最長通学距離

	距離	通学にかかる時間
A→豊平小	約 1.4km	約 28 分
B→豊平小	約 1.6km	約 32 分
C→旭小	約 1.9km	約 38 分

※分速 50m で計算

防災ウォーキング

危険な場所はないかな？

避難所までの安全なルートは？



ポケットサイズのマップで
最寄りの避難所まで歩いてみよう!!

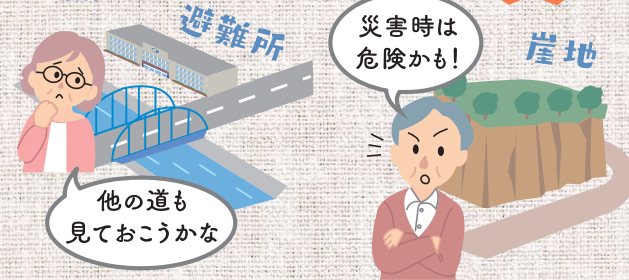
こんな風に活用!!

■近くの避難所まで歩いてみよう!

確認ポイント

- ✓橋を渡らないといけない
- ✓崖崩れが起こりそうな場所が近い

少し遠くても
別のルートで行ける
避難所を探そう

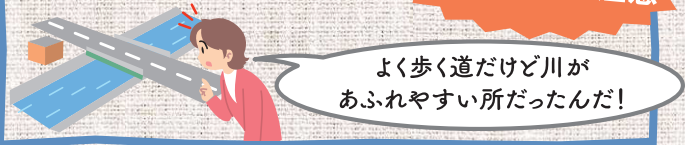


■災害時の危険箇所を確認しておこう!

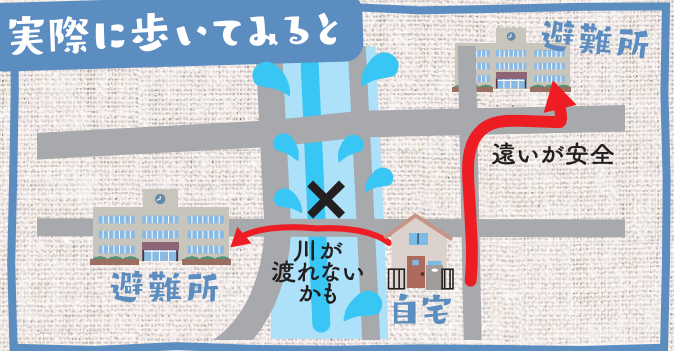
確認ポイント

- ✓普段通ることが多い

災害時は
通らないよう注意



実際に歩いてみると

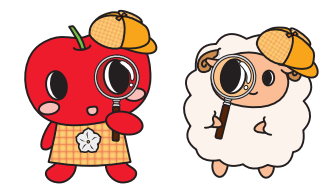


問い合わせ先
豊平区役所 市民部 総務企画課 地域安全担当
TEL011-822-2405 FAX011-813-6585



避難所一覧(マップ掲載分)

避難場所 指定区分	番号	施設 所在 名地	指定緊急避難場所			
			洪水	土砂	地震	大火灾
豊平地区						
	2	豊平小学校 豊平5条7丁目1-2	○	開 設 し ない	○	○
	3	旭小学校 水車町3丁目1-22	使 用 不 可	使 用 不 可	○	○
	4	八条中学校 豊平8条13丁目2-1	○	○	○	○



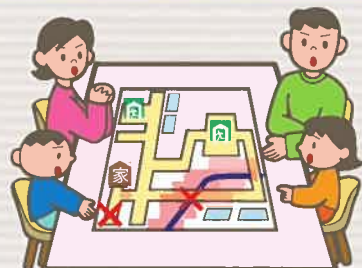
凡例

- 区界
- 町界
- 条丁目界
- 町内会連合会界
- 地下鉄
- 区役所
- 消防署・出張所
- 警察署・交番
- 病院
- 郵便局
- 指定緊急避難場所(大規模な火事)
- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 一時避難場所
- 公園・緑地
- 災害時基幹病院
救急告示医療機関
- 拠点給水施設
- 運搬給水施設
- 浸水想定区域
(~0.5m未満)
- 浸水想定区域
(0.5m以上~3.0m未満)
- 浸水想定区域
(3.0m以上~5.0m未満)
- 浸水想定区域
(5.0m以上~10.0m未満)
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域
- 洪水の際に地面が割られる
おそれのある区域(河岸浸食)

※浸水想定は、想定される最大の浸水区域とその深さを表しています。



札幌市 浸水ハザードマップ



大雨災害から身を守るために
ハザードマップで浸水の危険度
や避難方法などを確認しよう!!

想定し得る最大規模の降雨により想定される浸水区域を浸水の深さに応じて色を分けて表示しています。

- 札幌市洪水ハザードマップが**浸水ハザードマップ**として新しくなりました。
- 洪水**の浸水想定区域に加え、**内水氾濫**の浸水想定区域も確認できます。
- 洪水が発生していない場合でも、内水氾濫により浸水するおそれがあるので注意が必要です。

P3～P12
左側ページ

内水氾濫 避難地図

大雨が降り続くなどすると



- ▶**下水道**で雨を排水しきれず発生する浸水の区域とその深さを掲載した地図
- ▶**短時間であっても強い雨が降った場合**などに発生しやすい

洪水 避難地図

P3～P12
右側ページ



- ▶**川が氾濫**することで発生する浸水の区域とその深さを掲載した地図
- ▶**長時間にわたって大雨が降り続いた場合**などに発生する危険性がある

目次

ステップ ① 浸水を知ろう!!

- 1 内水氾濫と洪水のちがい 1

ステップ ② 浸水の危険度や避難方法を確認しよう!!

- 2 避難地図 2
- 3 避難について 13
- 4 大雨時に注意が必要な場所 15
- 5 大雨への備え 16
- 6 避難場所一覧 17

ステップ ③ いざという時の行動をメモしよう!!

- 7 わが家の防災メモ 18
- 8 情報入手先、緊急連絡先、お問い合わせ先 19

「わが家の防災メモ」(P18)

いざというときに備え、自宅などの危険度を把握し、**避難の方法**を確認しましょう。
きりとり線がありますので、すぐ見られるよう掲示しておくことができます。

書き込んで
掲示しよう!



浸水ハザードマップ
電子版はこちら



札幌市 令和5年1月作成

このマップは、カラーユニバーサルデザインに配慮してつくられています。

1 内水氾濫と洪水のちがい

内水氾濫 とは

- 大雨により下水道などで雨を排水できず、地上に溢れることで発生する浸水です。
- 短時間であっても強い雨**が降った場合や大雨により**川の水位が上がった場合など**に起こりやすい比較的**発生頻度の高い**浸水です。



浸水規模

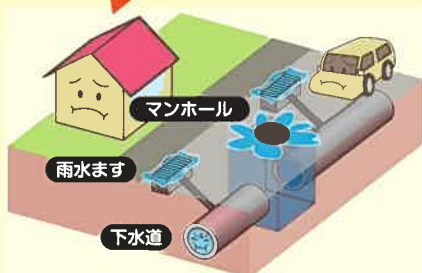
- ▶局地的で浅い（洪水に比べて）
- ▶道路が冠水したり、建物の1階が浸水するおそれ

取るべき主な行動

- ▶**建物の2階などの高い場所へ避難**
- ▶水のうの設置（P16の④を確認）

確認する避難地図

内水氾濫避難地図
(P3～P12の**左側** ページ)



下水道のマンホールや雨水ますから水が溢れます。



溢れた水が道路にたまります。

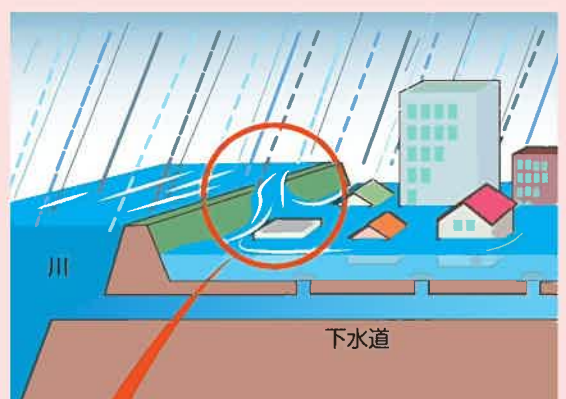


道路にたまる水が増えて宅地に流れ込み建物が浸水します。

大雨が降り続くなどすると

洪水 とは

- 大雨により**川が増水し、堤防を越えて水が溢れたり、堤防が決壊したりする**ことで発生する浸水です。
- 長時間にわたって大雨**が降り続いた場合などに発生する危険性があり、**発生頻度は低いものの、甚大な被害**をもたらします。



浸水規模

- ▶広範囲で深い
- ▶建物の2階以上まで水没したり、建物が流されてしまう危険性

取るべき主な行動

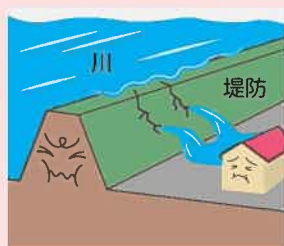
- ▶**指定緊急避難場所**  **(P17を確認) などへ速やかに避難**
- ▶避難が遅れた場合は、少しでも浸水しにくい高い場所へ直ちに避難

確認する避難地図

洪水避難地図
(P3～P12の**右側** ページ)



大雨によって川の水が増え、水かさ上がり始めます。



堤防いっぱいまで水が増え、堤防に水の力がかかり始めます。



水が増え、堤防が水の力に耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。



崩れた場所は一気に広がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

2 避難地図 浸水の想定条件

- この避難地図（P3～P12）は、最大規模の浸水に備えるために、**想定し得る最大規模の降雨**により想定される浸水区域を**浸水の深さに応じて色を分けて表示**した地図で、水防法の規定に基づき作成しています。
- 浸水シミュレーションによる想定ですので、着色されていない場合でも、浸水が発生しないということではありません。
- 土地利用や雨の降り方、下水道や川の整備状況などによっては、実際の浸水状況と異なることがあります。

内水氾濫

▶**下水道**で雨を排水しきれず発生する浸水

想定降雨

下水道は比較的流域が小さく、**短時間の強い雨**が降った場合に浸水規模が大きくなる特徴を踏まえ、以下の降雨を想定しています。

総雨量 125mm / 1 時間

浸水の想定方法

- ▶大雨を排水しきれず地上に溢れると想定される市内の下水道について、その溢れた水がどのように氾濫し広がっていくかを予想しています。
- ▶実際は、大雨が降った地域周辺において下水道から水が溢れ、浸水が発生します。

※下水道で雨を排水していない区域（計画外区域）および市外は浸水想定の対象としておりませんので、内水氾濫避難地図（P3～P12の左側ページ）では灰色（）で着色しています。
 ※土地利用状況は国土地理院国土数値情報（平成21年（2009年）までの調査結果）をもとに設定しています。
 ※下水道の整備状況は令和2年（2020年）3月末時点です。

洪水

▶**川**が氾濫することで発生する浸水

想定降雨

川は比較的流域が大きく、**長時間にわたる大雨**が降った場合に浸水規模が大きくなる特徴を踏まえ、川の流域の大きさに応じて、以下の降雨を想定しています。

豊平川(下流)：総雨量 406mm / 72 時間

月寒川(下流)・望月寒川(下流)：総雨量 556mm / 72 時間、月寒川：168mm / 2 時間、望月寒川：155mm / 2 時間、精進川：125mm / 1 時間

望月寒川(令和4年度指定)：総雨量 155mm / 2 時間、真駒内川：総雨量 156mm / 2 時間、ラウネナイ川：総雨量 134mm / 1 時間、うらうちない川：総雨量 125mm / 1 時間

※豊平区に、浸水が想定される区域がある川のみ掲載

浸水の想定方法

- ▶堤防の決壊が想定される全ての箇所について、どのように氾濫し浸水するかを予想し、それらの結果を重ね合わせ、浸水の区域と深さを表示しています。
- ▶実際は、それらのうち限られた箇所が氾濫し、浸水区域が広がりながら徐々に深くなります。

▶「札幌市地図情報サービス」（P19を確認）では、自宅などがどの川の浸水想定区域にあるか確認できます。

土砂災害にも注意してください

- 大雨が降った場合には、土砂災害が発生する危険性もあります。
- この避難地図（P3～P12）では、**土砂災害警戒区域**（）も掲載していますので、必ずご確認ください。
- 自宅などが「土砂災害警戒区域」にある場合は、**指定緊急避難場所**（）（P17を確認）などへ避難しましょう。

土石流

山腹や川底の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象



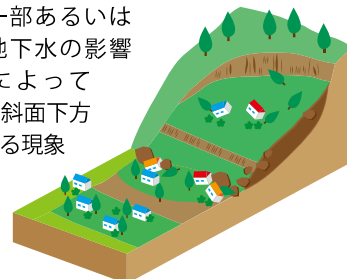
がけ崩れ

山の斜面や自然の急傾斜の崖、人工的な造成による斜面が突然崩れ落ちる現象



地すべり

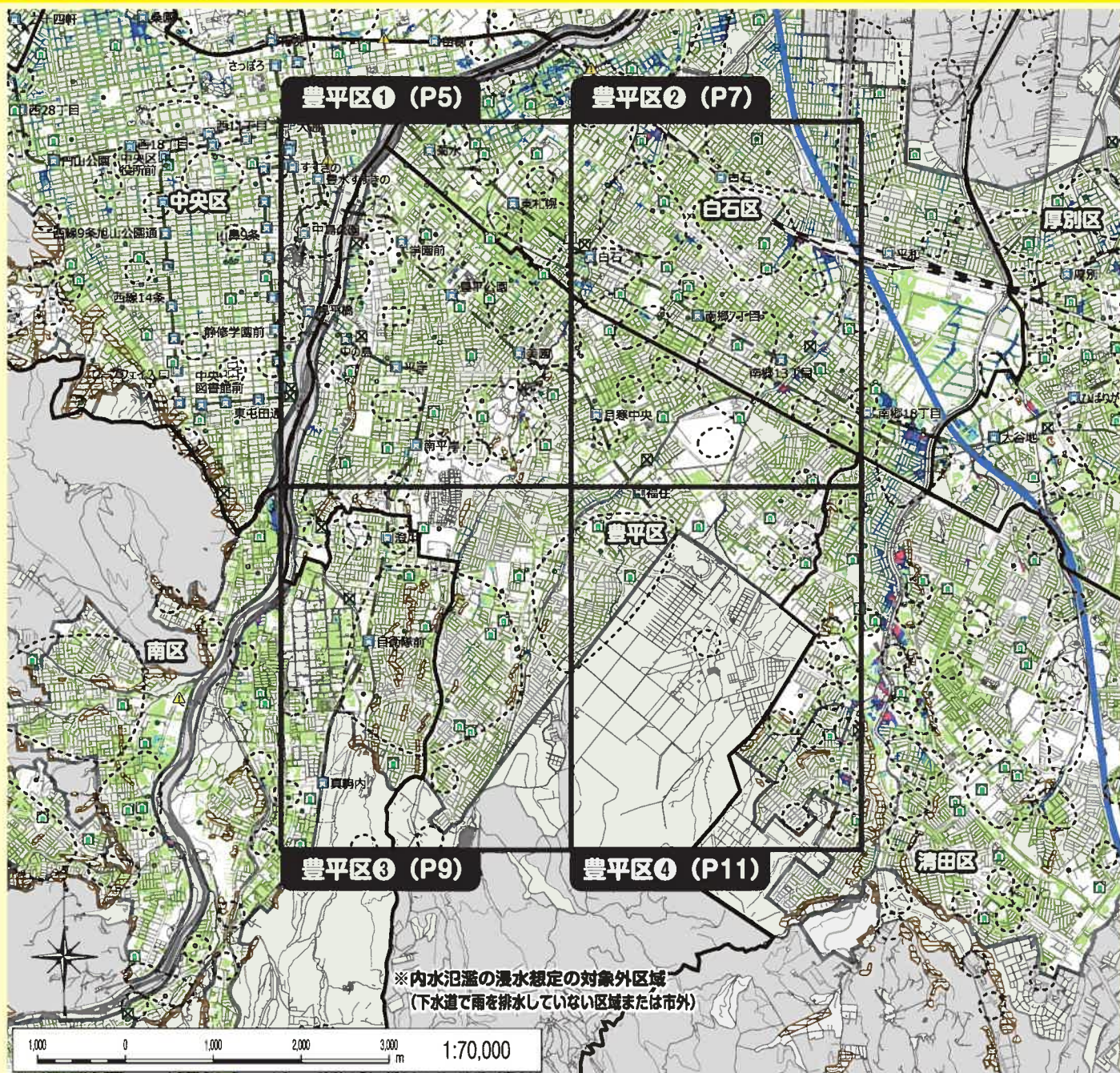
斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくり斜面下方に移動する現象



2 避難地図 広域図

内水氾濫避難地図

▶ 下水道で雨を排水しきれず発生する浸水を想定



【浸水の深さに応じて色を分けて表示しています】



1階部分が浸水。床上が浸水。

大人のひざまでつかる。床下まで浸水。



過去の浸水箇所

この区域内では過去に浸水が発生していますので、着色されていない場所であっても浸水の発生に十分注意してください。



内水氾濫の浸水想定の対象外区域
(下水道で雨を排水していない区域または市外)



土砂災害警戒区域

令和4年4月1日時点
洪水避難地図(右側ページ)でも確認できます。

凡例



区境
JR・地下鉄の駅
市電の停留場



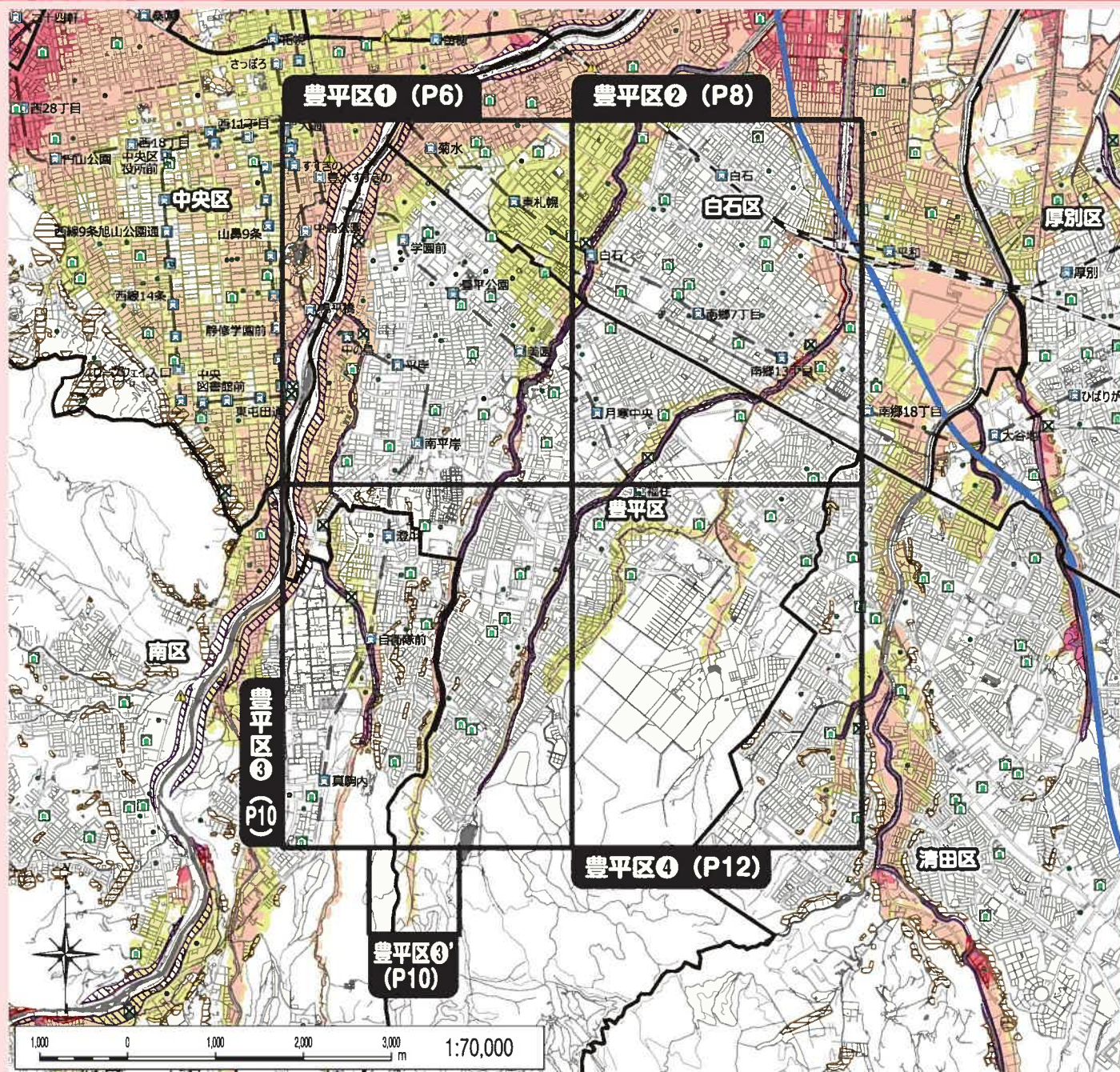
JR
アンダーパス
(主要なもの)

地下鉄・市電

高速道路

洪水避難地図

▶ 川が氾濫することで発生する浸水を想定



【浸水の深さに応じて色を分けて表示しています】



家屋倒壊等氾濫想定区域



流速が早く、木造家屋が倒壊するおそれのある区域（氾濫流）



洪水の際に地面が削られるおそれのある区域（河岸侵食）



土砂災害警戒区域

令和4年4月1日時点

内水氾濫避難地図（左側ページ）でも確認できます。

凡例



指定緊急避難場所 兼 指定避難所（基幹）

- ▶ 災害から身を守るために緊急的に避難する場所です。災害の種類ごとに指定しています。
- ▶ 災害の危険性がなくなるまで一定期間滞在などする指定避難所（基幹）を兼ねています。
- ▶ は洪水・土砂災害時に使用できません。



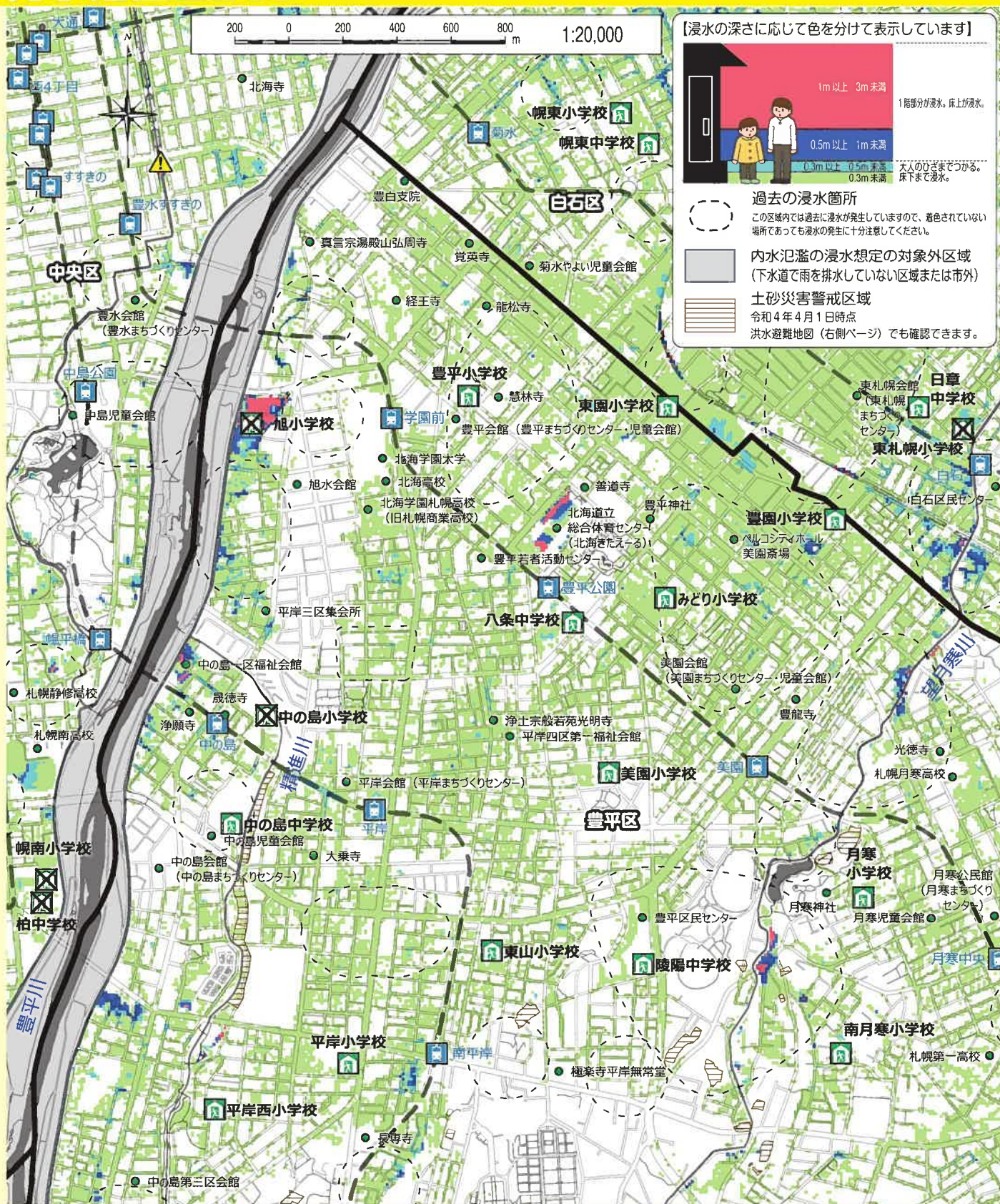
指定避難所（地域）

- ▶ 指定避難所（基幹）を補完する施設であり、状況に応じて開設されます。

2 避難地図 拡大図

内水氾濫避難地図 豊平区①

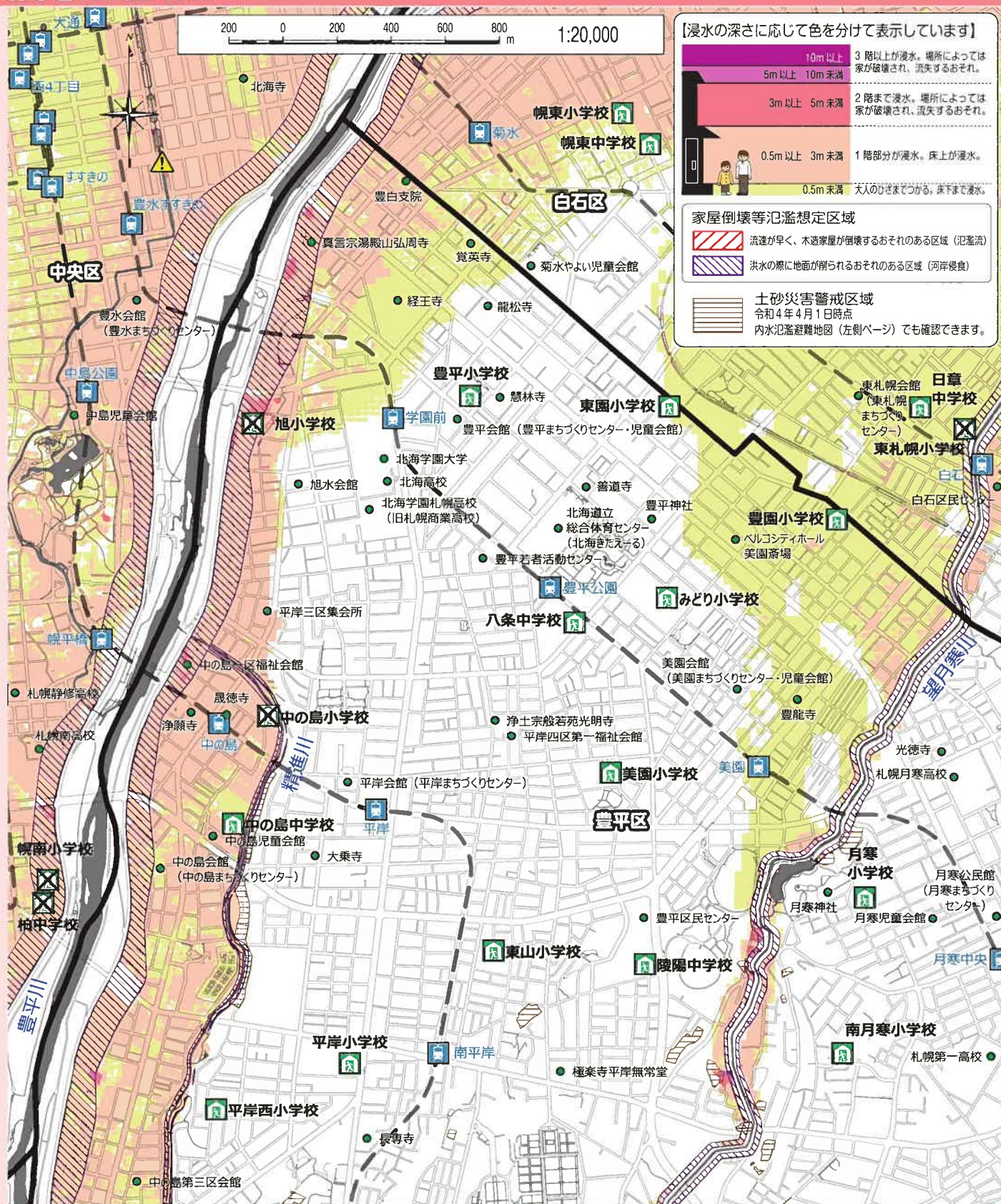
▶ 下水道で雨を排水しきれず発生する浸水を想定



凡例	区境	JR	地下鉄・市電	指定緊急避難場所 兼 指定避難所(基幹)
	JR・地下鉄の駅 市電の停留場	アンダーパス (主要なもの)	高速道路	▶ 災害から身を守るために緊急的に避難する場所です。災害の種類ごとに指定しています。 ▶ 災害の危険性がなくなるまで一定期間滞在などとする指定避難所(基幹)を兼ねています。 ▶ は洪水・土砂災害時に使用できません。
				指定避難所(地域)
				▶ 指定避難所(基幹)を補完する施設であり、状況に応じて開設されます。

洪水避難地図 豊平区①

▶ 川が氾濫することで発生する浸水を想定



2 避難地図

【避難地図の使い方】

- ① 自宅 などの位置を確認し、○をつけましょう。
- ② 最寄りの指定緊急避難場所 を確認し、○をつけましょう。
▶ 避難場所一覧は P17 をご確認ください。
- ③ 避難経路をいくつか設定しましょう。



避難経路設定のポイント！

- ▶ できるだけ川や崖の近くは避難経路にしないようにしましょう。
- ▶ 川から離れていても内水氾濫により、浸水する可能性があります。内水氾濫避難地図（左側ページ）も見て、できるだけ浸水が想定されない経路を設定しましょう。